

---

# 遥かなる旅路～小説ドラゴンクエスト?～

莉紗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遙かなる旅路〜小説ドラゴンクエスト?〜

### 【Nコード】

N7920Z

### 【作者名】

莉紗

### 【あらすじ】

現在ではないとき、此処ではない場所で。

二羽の鷹が切羽詰まった様子であった今目にしたことを風に、風が木々に、そして木々が動物達に伝えた。

大きくてそれはそれは立派なお城が、たった一日にして滅んでしまったと。

その日から主人公リユナと、仲間たちの冒険が始まる。

遙かなる旅路へと。

今ブログから引っ越し中です。もうすぐ終わるか…重複投稿(?)  
しています。ご了承ください。

## キャラクター設定。

リユナ

この物語の主人公。頭に巻いた赤いバンダナがチャームポイントの青年。

優しい顔立ちとそれを裏切らない性格の持ち主だが、武術や呪文にも秀でている。

トロデ、そして馬と共に旅をしていた謎多き人物。

ヤングス

元山賊の男。リユナに助けられたことから彼を兄貴、と慕い旅を共にする。

力任せの肉弾戦派で、身体中に残る傷痕は今までの戦いを物語っている。

語尾に〜でげす、〜でがんす、と付けるのが癖。

ゼシカ

アルバート家の激しい気性を持つお嬢様らしからぬお嬢様。その呪文の才能には舌を巻くほど。

兄をドルマゲスに殺され、リユナ達と旅を共にすることに。

ククール

全国各地に置かれる聖堂騎士団の中樞、マイエラ修道院下に属す色男。

女とイカサマと剣なら右に出るものはなし。

父のように慕った修道院長をドルマゲスに殺され、主人公と旅を共

に。

トロデ

自分を王と名乗る謎の生物。見た目は緑色の醜い化け物。

彼が馬とリュナを引き連れ旅する目的とは？

馬

優しい眼をした美しい馬。

トロデからは目に入れても痛くないほどと可愛がられている。

## キャラクター設定。(後書き)

このような感じですか。

カップリング要素はあまり入れられないかもしれないかもしれないけれど…

原作通り    リユナとミーティア

オリジナル    ククールとゼシカ、ヤンガスとゲルダ

という風に進めていく予定。

## 序章？

現在ではないとき、此処ではない場所で。

二羽の鷹が切羽詰まった様子でたった今日にしたことを風に、風が木々に、

そして木々が動物達に伝えた。

大きくてそれはそれは立派なお城が、たった一日にして滅んでしまつたと。

そしてその城には、神鳥よりもたらされし秘宝「神鳥の杖」が封印されていて、

その杖がなくなっていたのだと。

神鳥の杖は人間離れした力を発揮させる。

神と崇められる鳥から与えられたのだから。

人々は畏れ慄いた。杖には指一本触れなかった。

だから今まで、この世は平和だったのかもしれない。

邪な人間に杖が渡つたとすれば

動物たちは互いに身を寄せ合い、これからの行く末を案じた。

小さな野ネズミが草むらを走り抜ける。虫を追い掛けているようだ。長い尻尾がわさわさと揺れる。

よそ見をしていたのかトン、とぶつかったのは長い橙色のロープを着た人物・・・人？

怪訝そうな顔をして振り返ったのは緑色の怪物じみた化け物だった。キーンっ、と歯をむき出すと、野ネズミは驚いて飛び上がる。

「ハハハッ、トロデ王に驚いてるよ可哀想に。そらトーポ、おいで。

赤色のバンダナを頭に巻いた青年が言う。

黄、青の鮮やかな色合いの服。澄んでいて、なお意志の強そうな黒い瞳。

背中にしまわれているのは、長めの片手剣だ。

トローポと呼ばれた野ネズミは一目散に主人の元へ駆け寄った。差し出された手を駆け登り、彼の左ポケットに潜り込んだ。

「そりゃあ、トロデのおっさんを見て驚かない人間はそうそういないでがんすよ。」

その様子を遠目から見て笑いながら言う一人の男。

棘の生えた実を半分に割ったような帽子を頭に被り、背には斧を背負っている。

フサフサとした毛皮のベストや擦り切れたブーツからは、旅慣れた者の香りがする。

身体中に走る傷痕…右頬の十字傷等…、目つきの悪さ、まるで山賊だ。

「そんなことをいうでないヤンガスっ。ワシとて望んでこんな姿になっっている訳ではないのだ。ワシが人間の頃はもっとハンサムでな…何かおかしいか、リユナ。」

「いや、な、何もないですよ…プッ。」

「そうか。リユナの兄貴はおっさんが人間の時の顔を知っているでがんすね。」

「どうだったでげすか？」

「いや、大して変わってないよ。」

「やっぱりね、と笑うヤンガス。トロデは笑う二人をポカリと殴った。」

## 序章？（後書き）

さて、始めました「遙かなる旅路」  
はじめまして、またはお久しぶりです！

ドラクエは？が一番好きなので。

これからも書いて行きます！よろしく願いします。

## 序章？

「そう言えば、姫は？ 姫や、姫やどこじゃ。」

「姫って…あの馬姫様のことですかい？ そう言えば姿が見えないでげすな。」

長旅において必ず必要な物の中に「馬車」が有る。

疲れた時は中で休むことは勿論、荷物や武器を運んだり、目的によつては

人をかくまうことも可能だ。

リユナたちのパーティーも当然、馬車を持っている。

小ぢんまりとしているが、どことなく気品が漂っているのは気のせいだろうか。

その馬車を曳く馬、その馬が消えてしまったのだ。

ちなみにトロデは、この馬をまさに「目に入れても痛くない」状態。溺愛しているのだった。

三人…は辺りを見回す。

ここは鬱蒼と繁った森の中。迷い込む隙は沢山有る。

トロデが必死に呼ぶが、馬は一向に姿を見せない。

と、茂みがゴソッと動いた。

「姫や、そこにいるのか？」

トロデは茂みに近づいた。その時リユナ首筋にピリピリと緊張を感じた。

年の感覚で分かる、殺気だ。

反射でトロデを突き飛ばした。

「ヤンガスッ。」

「おうよ。」

軽々と飛んできたトロデをヤンガスがキャッチし、リユナは地に倒れる。

同時に茂みからスライムが何匹か飛び出した。

サツと飛び起き背から剣を抜く。キラリと鈍く光る刃、長年使い古している僕の愛剣。

ふるふると体を震わせ、トロデに飛び掛かろうとした二匹を一刀で切り捨て、

返す刀で向かってきた一匹を薙ぐ。両足を踏ん張り、剣と共にぐるりと一周。

そんなリユナの背後に忍び寄った何匹か。まずい、気付いて体を捻ってももう遅い。

まあかすり傷の一つや二つ増えるだけさ…

「とうつ。」

割り込んできたのはヤンガス。左脇にはヤンガスに抱えられたまま、頭を手で覆い体を縮こまらせ震えるトロデ。

そんなことはつゆしらず、右手で斧を振るう。

ぐわあんと大気が震え、衝撃波だけでスライムは潰れていった。

毎日手入れを欠かさない鉄製の斧はヤンガスが使うと化け物じみた威力を発揮する。

気付けばスライムは居なくなっていた。グサツと二人が同時に武器を地に差した。

「あー、大分腕が鈍っちゃったでがんす…おっさん？大丈夫でげすか？」

ヤンガスが見下ろした先には憎らしげに睨みを効かせるトロデがいた。

「助けて貰ったことには礼を言う。しかし…せめてワシを置いてから戦いに加われっ！」

死ぬかと思ったぞっ。」

「いやあおっさん小さすぎで。」

こりゃ喧嘩になるぞ…、勢いだけの口喧嘩にリユナは無意識に微笑んだ。

## 序章？

口喧嘩をしていたトロデが叫ぶ。

木々の間から姿を表したのは一頭の白い馬。

鬣は丁寧に結われ、赤い馬銜はみを付けている。

何より印象的なのはその瞳だ。全てを優しく包み込むような人間離れ……

否、馬離れした翠色の。

「無事じゃったか姫！心配したぞ。」

馬は謝るように低く嘶いた。

「良かった良かった。さあ今日中にトラペッタに着いちまいますよ  
うぜ、兄貴。」

「ああ、そうだね。」

そう言つて空を見上げるリュナ。ヤングスはその顔に深い影が差しているように

見えてならなかった。

「トラペッタにはマスター・ライラスなる男がいる。ドルマゲスは  
その弟子じゃ。」

何かしら知っておるかもしれぬ。」

「ドルマゲス……」

「ワシらをこんな姿に変えた張本人じゃ……リュナ、あまり自分を責  
めるでない。」

「兄貴？一体兄貴は何者で……？」

トロデはただ静かに首を振った。今はまだ早い、と。

リュナはギリツと奥歯を噛み締めた。今でも覚えている。

たった一度だが、奴と真正面から対峙したあの日。

全力を叩きつけるようにして放った必殺剣、「ギガスラッシュ」。

剣に雷の魔力を宿し、相手を一網打尽にする技だ。

大抵の魔物はリュナのこの技によって倒されていった。

しかし…奴、ドルマゲスは違った。

フツ、と鼻で笑い易々と避ける。そして目の前から消えた。

甲高い笑い声を残して。

あれからは毎日欠かさず練習をしてきた。最近一段と濃くなった邪悪な気配。

呼び寄せられるように、辺りには魔物が多くなった。その分剣も握る。今度こそ…僕は。

沈みかけた夕陽を、リュナは剣の柄に手をかけながらじっと見つめた。

## 序章？（後書き）

序章、完結しました。

これからどうなるのでしょうか…いろんな意味で不安。

何やかんや言って8主が一番好きな私。

## 始まりの街 トラペッタ ?

「おおつ、あれじゃないっすか？」

「まさしくそうじゃの。」

前に見えてきたのは巨大な門。何故か分からないが煙も立ち上っている。

「…狼煙？祭りでもあるのかなあ。」

傍に見張りの兵士が立っていた。一行が通りすぎる時、不審そうな顔をしたのリユナは見逃さなかった。

「王、ここで待っていてください。僕たちが情報を集めてきますから。」

「そうか、では頼むぞ。」

トロデを町に入っすぐの場所に待たせ、二人は情報収集に出かけた。

「おっさん、置いて行っていいんでげすか？一緒に連れて行かなくて。」

「ああ、逆に怪しまれるのがオチだよ。唯でさえこの物騒な世の中だ。」

いくら呪いとはいえあの様な姿の王が、町の人々に奇異の視線を向けられるのは

避けないとね。」

「…少しおっさんが可哀想になってきたでがんす。」

「王だけじゃない。メイド長にコックたち、そしてミーティア…っ 姫までもが…」

息をつめて、ゆっくりと吐きだすリユナ。ぶんぶんと頭を振って、

暗い空気を

振り払うように言った。

「さあて、街で情報の集まる場所と言えば？」

「酒場でやんす！」

「正解。」

ニコリと笑ってリュナは歩きだした。夕暮れの町にはネオンの明かりが

ちらほら見え始めていた。

リュナの兄貴には隠された過去がある。しかし俺に話してくれないのは、

まだ俺が未熟だからだ。兄貴が安心して背中を預けられる男にならねえと。

頑張らなきゃな、と柄にもなく思い、急いでリュナの後を追いかけた。

入り組んだ街を歩いて行くと、プーンといい香りが鼻をついた。

酒の香りだ。

ヤングスは思わず頬を緩ませた。きらびやかにネオンに彩られた酒場の看板を見つけ、

ドアを押した。

「いらっしやい。ん？お客さん見ない顔だね、旅人ですかな？」

ニコニコと人のよさそうなマスターだ。中は酒場にしては大きい方で、

珍しくカウンターが二つある。

仕事帰りの男や若い兵士で賑わっていた。

「ああ、少し人探しをしているんだ。」

「ほお、お疲れ様で。まあ、適当に座って下さい。」

「兄貴、一杯やりやしよう。」

バニーガールが引いた椅子に遠慮なく腰掛ける。

「ほいよ、ビールです。……で、お客様方の探してる人とは誰ですか？」

「たしか…マス。」

「しっかし怖いよな…。放火でポーってなって一気にお陀仏だぜ？隣の男が二人話している。リユナは咄嗟にヤンガスの口を押さえた。マスターとヤンガスが怪訝そうな顔で振り向く。

「でも犯人が分かっちゃいないんだろ？」

「きつとあいつだ、変な道化師野郎。ほら、つい先日来た奴さ。ライラスさんが死んだあと

すぐに行方をくらませちまったし。」

「なんだと？マスター・ライラスが死んだあ？」

腹の底から出された叫び声に視線が集まる。

リユナは焦ってヤンガスを座らせた。

「おうよ、兄ちゃんたち。この町の者じゃねえな。」

「ああ、マスター・ライラスを訪ねてここまで来たんだ。」

「しかしまあな、タイミング悪いがな。」

「いきなりだったよな。」

周りの男たちはまためいめいの話に戻っていった。

「そうか、お客様方の尋ね人はライラス先生でしたか。」

「死んだって…。放火つすか？」

「いや、自殺だという声もあるんですよ。」

「あっ！」

リユナは弾かれたように思い出した。町に入って来るときに見えた煙。

「そう、あれは家がまだ燻っているんですよ。しっかし、普通の火じゃないみたいなの…」

なかなか消えないんですよ。」

二人はまさか、と顔を見合わせた。普通の火なら水を掛ければ消える。

しかし魔法で生み出された火はなかなか消えないのだ。

「私は放火だと思えますよ。つい先日来た道化師らしき男が火事のあと  
姿を消しちゃいましたね。」

始まりの街 トラペッタ ? (後書き)

始まりの街トラペッタ編突入!

さてさて、リユナ君の能力がぼちぼち見え始めます。

未だに操作に慣れないのだ ! ううー!

もうすぐ2011年終わっちゃいますね。寂しいですね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7920z/>

---

遙かなる旅路～小説ドラゴンクエスト?～

2011年12月28日02時01分発行